

中間評価（表紙）

長浜市歴史的風致維持向上計画（令和2年8月26日認定）
中間評価（令和2年度～令和6年度）

■ 統括シート（様式1）	2
■ 方針別シート（様式2）	
I 歴史的建造物の保全と活用	3
II 歴史的町並みの保全・形成	4
III 歴史や伝統文化を反映した活動の継承	5
■ 波及効果別シート（様式3）	
i 観光客数の回復・増加	6
ii 住民意識の向上	7
iii 近世城下町の町割りの認知度向上	8
■ 代表的な事業の質シート（様式4）	
A 曳山文化を活かしたまちづくり	9
B 観音の里ふるさとまつり開催	10
■ 歴史的風致別シート（様式5）	
1 近世城下町の町割りに見る歴史的風致	11
2 長浜曳山祭にみる歴史的風致	12
3 大通寺とその門前町にみる歴史的風致	13
4 街道にみる歴史的風致	14
5 竹生島にみる歴史的風致	15
6 観音信仰にみる歴史的風致	16
7 奥琵琶湖にみる歴史的風致	17
8 地域の民俗行事に見る歴史的風致	18
■ 庁内体制シート（様式6）	19
■ 住民評価・協議会意見シート（様式7）	20
■ 全体の課題・対応シート（様式8）	21

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	近世城下町の町割りにみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	
2	長浜曳山祭にみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	
3	大通寺とその門前町にみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ	
4	街道にみる歴史的風致	Ⅱ	
5	竹生島にみる歴史的風致	Ⅰ、Ⅲ	
6	観音信仰にみる歴史的風致	Ⅲ	
7	奥琵琶湖にみる歴史的風致	Ⅱ、Ⅲ	
8	地域の民俗行事にみる歴史的風致	Ⅲ	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
Ⅰ	歴史的建造物の保全と活用		
Ⅱ	歴史的町並みの保全・形成		
Ⅲ	歴史や伝統文化を反映した活動の継承		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	観光客数の回復		
ii	住民意識の向上		
iii	近世城下町の町割りの認知度向上		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	曳山文化を活かしたまちづくり	歴史的風致維持向上施設の整備・管理 その他	
B	観音の里ふるさとまつり開催事業	その他	

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
方針	I 歴史的建造物の保全と活用	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題：大通寺や長浜曳山祭の山蔵などの歴史的建造物は、長年の風雪などによる経年の破損や老朽化が進行しており、美しい景観を阻害している。

方針：長浜曳山祭の山蔵と大通寺の伽藍群は、破損状況を調査し把握したうえで、専門家の指導のもと適切な保存修理を行うことで本来の安定した状態に復し、良好な景観を創出する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	山蔵保存修理事業	諫鼓山山蔵（漆喰壁塗替等）保存修理完了 壽山山蔵（壁塗替・軒樋）保存修理完了	あり	R4～R5
2	大通寺伽藍群保存修理事業	大通寺講場（茶所・因講・二十八日講） 建造物記録保存調査完了	あり	R5

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【山蔵保存修理事業】

重点区域内に点在する13の山蔵のうち、長年の風雨や経年劣化等により破損している壽山山蔵（漆喰壁・軒樋）及び諫鼓山山蔵（漆喰壁）の保存修理を行うことで、収蔵している曳山を適切に管理するとともに、歴史的な景観の維持・保全を図ることができた。

【大通寺伽藍群保存修理事業】

大通寺伽藍群の一部であり、総会所と呼ばれる講場のうち、茶所、因講、二十八日講の維持・保全については、これまでから所有者と協議を進めてきたが、経年劣化等による損傷が著しく、保存修理が難しいことから、所有者によって解体。結果として、大通寺伽藍群の一部である講場について、歴史的な景観の維持・保全を図れなかったことが反省点である。解体実施までに、各建物の実測調査、記録写真の撮影、瓦の保存、並びに古文書の調査などを行うことで、各講場の構造や増改築の変遷過程、さらには大通寺を支えていた講組織の様子をたどり、調査を行った。

山蔵修理監理の様子

大通寺講場の調査の様子

④ 自己評価

山蔵の保存整備により、破損箇所や経年劣化した部分を修繕し、歴史的建造物としての価値を高めるとともに、良好な景観の保全を図ることができた。

大通寺伽藍群の一部である講場の解体については、歴史的な景観の維持・保全を図れなかったことが反省点であるが、境内における民衆布教の歴史を物語る貴重な遺構の調査を行い、記録保存に努めた。

⑤ 今後の対応

重点区域内の歴史的建造物の保全と活用について、今回、保全を保てなかった一部講場については、調査の結果について今後貴重な記録として伝えていき、また、未着手の建造物については、継続して事業を進める。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
方針	I 歴史的町並みの保全・形成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

課題：伝統的な町屋が取り壊され、空き地や駐車場等の空閑地が徐々に増加しているとともに、周辺と不調和な建築物や屋外広告物が歴史的な町並みを阻害している。

方針：町屋を改修し、店舗や住宅など現代のライフスタイルに合わせた機能を創出し、空閑地を有効に活用する方策を検討するとともに、歴史的な景観形成のため、修景整備を推進する。また、景観計画及び、長浜市屋外広告物条例に基づき良好な景観の形成に努める。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	黒壁ガラス館本館耐震改修事業	令和2年12月着手/令和3年3月完了	あり	R2
2	歴史的建築物保存活用事業・伝統的街並み景観形成事業	平成20年度～令和5年度：61件 令和6年度：3件（うち町屋2件）	あり	H20～
3	屋外広告物修景顕彰事業	「長浜景観広告賞」を実施	あり	H24～R3
4	木之本宿道路整備事業	道路の美装化、路側帯の整備完了見込L=290m	あり	R2～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【黒壁ガラス館本館耐震改修事業】
黒壁ガラス館本館の長寿命化や耐震改修を実施することにより、来街者の安全性を確保しながら、伝統的な建築物を保全活用した。

【歴史的建築物保存活用事業・伝統的街並み景観形成事業】
中心市街地及び北国街道木之本宿内の伝統的な街並み景観の維持形成に欠かせない町屋の改修に対し補助することにより、周辺と調和した建築物の保全活用を行うとともに、伝統的な町並みを維持した。

【北国街道木之本宿道路整備事業】
道路の美装化と併せて、歩道と車道を明確に区分し歩行空間を拡幅。また、冬季の移動ルートを確保するために消雪設備を整備した。
歩行者が歩きやすい空間を創出し、北国街道木之本宿での周遊性を高めたが、結果として、地域住民の通行の安全性を重視した結果、北国街道としての歴史的な景観を一部失うこととなったことが反省点である。

黒壁ガラス館本館（耐震改修後）

道路改良後（美装化未施工）

④ 自己評価

伝統的な建造物の耐震化や町屋改修を補助することにより、伝統的な町並み景観を維持することができた。

また、北国街道木之本宿の美装化及び路側帯の整備については、住民や観光目的の来訪者の安全性を確保することができたが、一部道路について、地域住民の通行の安全性を重視した結果、歴史的な景観を一部失うこととなったことが反省点である。

⑤ 今後の対応

今後は空き店舗を活用した事業を支援し、物件が伝統的な町屋である場合には補助額を上乗せするなど、町屋を活用する意欲のある事業者を重点的に支援することにより、伝統的町並みの景観を維持し、町のさらなる魅力向上に努める。北国街道木之本宿においては、歴史的景観の保全活動を図りながら道路整備を進めるとともに、駐車場なども整備することで町並みの保全と来訪者の利便性向上を図り、北国街道木之本宿での周遊性を高める。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
方針	Ⅲ 歴史や伝統文化を反映した活動の継承	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要
 課題：長浜曳山祭において、狂言を行う子どもの減少や、山車の修繕を行う技術者の高齢化が進行しており課題となっている。
 方針：地域固有の伝統を反映した人々の活動を未来へ確実に継承するため、その普及啓発及び担い手となる後継者を育成する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	長浜曳山祭保存伝承事業	曳山祭支援、三役修業塾、囃子保存育成、保存促進、普及啓発事業の実施	あり	R2～R6
2	きもの大園遊会開催事業	長浜KimonoAWARDS来場者数8000人	あり	R2～
3	観音の里ふるさとまつり開催事業	30か所の御堂を開帳	あり	H23～
4	文化財の調査・指定	調査：17件、指定：28件	あり	R2～R6
5	文化財の保存・修理	31件の修理（累計）	あり	R2～R6

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【長浜曳山祭保存伝承事業】
 長浜曳山祭に対する支援をはじめ、三役修業塾及び囃子保存会での担い手育成、曳山の保存修理のための事前調査や専門委員会の開催を実施した。保存伝承に向けた取り組みを継続して実施することにより、曳山文化の保存継承を図った。

【きもの大園遊会開催事業】
 長浜きもの大園遊会は、大通寺を中心に市街地一帯で開催される着物イベントである。令和6年度からは、新たな取り組みとして長浜kimonoAWARDSを開催。服飾デザイン系の学生による着物のファッションショー形式のコンテストをイベントの中心に、着物姿の参加者が街並みをそぞろ歩き、良好な市街地環境を形成するとともに、着物文化に対する住民の意識向上に寄与した。

囃子保存会 稽古の様子

長浜kimonoAWARDS開催時の様子

④ 自己評価
 長浜曳山祭における担い手の育成と、行事の保存伝承に向けた取り組みにより、地域住民の曳山祭りを次世代へ継承する意識が向上した。きもの大園遊会開催事業では、令和6年度より従来の振り袖姿の女性が参加するイベントから、着物ファッションショーコンテスト等の新イベントを開催し、若い世代が着物文化に触れる機会とすることができた。

⑤ 今後の対応
 長浜曳山祭については、祭における担い手育成、保存伝承に向けた取り組みを継続しているが、地域住民の減少や少子高齢化が進んでおり、引き続き事業を推進する必要がある。山車の修理については、高度な技術が求められることから、その技術の継承についても取り組む必要がある。きもの大園遊会開催事業については、今後も着物の似合うまち・長浜を目指しながら、効果的な事業となるよう柔軟な開催体系を検討する。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
効果	i 観光客数の回復		

① 効果の概要
コロナで落ち込んだ観光客数の回復

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	長浜市総合計画	あり	H29～R8
2	長浜市観光振興ビジョン	あり	R4～R8

③ 効果発現の経緯と成果

長浜市への観光客数は、新型コロナウイルス感染症流行の影響で大きく減少した。その後も、団体旅行の回復が見られない一方で、個人旅行者が増加するなど影響は続いている。

コロナ禍以降の観光動向の変化に対応するため、個人旅行者をターゲットとして、多様な趣味や嗜好に合わせた取り組みを進めた。普段は入ることができない観音堂や、市内の歴史的観光地を学芸員のガイド付きで見学できる高付加価値ツアーを開催するなど、新たな観光の形を推進し、観光客数の回復に努めた。

年度	観光客入込状況
平成30年	6,752,200
令和元年	7,056,900
令和2年	4,586,300
令和3年	4,254,436
令和4年	5,236,643
令和5年	5,950,000

…新型コロナウイルス感染症の影響を受けた期間



高付加価値ツアーチラシ

④ 自己評価

新型コロナウイルス感染症の流行以降、観光客数が減少していたが、個人旅行者をターゲットとした高付加価値ツアーの取り組みなどを実施し、市内の歴史的観光地を中心に、社会変化に対応した新しい観光を推進することで、観光客数が徐々に回復している状況である。

⑤ 今後の対応

今後は、引き続き「滞在型・体験型・交流型観光」のニーズ対応、歴史的な高付加価値ツアーの造成等に取り組み、本市固有の歴史文化の魅力をPRするとともに、戦略的なシティプロモーションを展開していく必要がある。また、インバウンド対応として、観光施設の多言語化等に取り組む必要がある。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6			
効果	ii 住民意識の向上					
① 効果の概要						
住民が主体となった歴史的街並みの保全活動						
② 関連する取り組み・計画						
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度			
1	長浜市総合計画	あり	H29～R8			
2	長浜市都市計画マスタープラン	あり	H28～R8			
3	長浜市景観まちづくり計画	あり	R2～			
③ 効果発現の経緯と成果						
<p>伝統的な建造物が数多く残る北国街道木之本宿において、定期的に地元住民と協議する検討部会を開催し、意見交換を行いながら建造物の調査及び保存対策を実施した。</p> <p>また、地元住民と市職員による重要伝統的建造物群保存地区の先進地視察（福井県南越前町今庄宿）を開催するなど、街並み保存の気運醸成を図った。</p> <p>○令和元年～令和3年度：伝統的建造物24棟（主屋11棟、土蔵7棟、その他6棟）の調査を実施</p> <p>○令和5年度：伝統的建造物保存地区について、地域住民と検討部会を開催</p> <p>○令和6年度：重要伝統的建造物群保存地区先進地の視察（福井県南越前町今庄宿）を実施</p>						
						
研究会の様子		今庄宿見学の様子				
④ 自己評価						
<p>住民意識の向上として、地域住民と連携し、建造物の調査及び保存対策について検討部会や視察等の活動を行った。</p> <p>これらの活動により、重点区域や周辺の景観に対する住民の意識の変化や、伝統的町並みの保存及び活用に対する気運が醸成された。</p>						
⑤ 今後の対応						
<p>今後も、市と地元住民が連携し、地域の歴史的建造物や町並みについての理解を深めるため、景観の保全を話し合う場を定期的に設け、意見交換や実態に即した保全活動を探っていく。</p> <p>また、引き続き、建造物の調査や保存対策を行い、伝統的建造物群保存地区の指定についても検討していく。</p>						

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6																				
効果	iii 近世城下町の町割りの認知度向上																						
① 効果の概要																							
長浜城下町まちづくり勉強会等で「近世城下町のルーツ長浜」の認知度向上																							
② 関連する取り組み・計画																							
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度																				
1	長浜市総合計画	あり	H29～R8																				
2	長浜市観光振興ビジョン	あり	R4～R8																				
③ 効果発現の経緯と成果																							
<p>地元住民や関係団体により結成された「長浜城下町まちづくり勉強会」では、長浜城下町の成立や展開、曳山祭りとの関係など、近世城下町をテーマにした地域活性化やまちづくりについて学んでおり、学識経験者を招いた勉強会や近世城下町ふるさとまつりを開催している。</p> <p>また、住民が改めて近世城下町としての長浜を見つめなおし、歴史的な建物や景観を伝承していくために、市民の投票によって「長浜城下町遺産」を選定する制度を創設し、事業の一環として街歩きイベントなどを開催。近世城下町の町割りについて認知度を向上することに繋がった。</p>																							
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2">長浜城下町まちづくり勉強会</th></tr> <tr> <td>第1回</td><td>38名</td></tr> <tr> <td>第2回</td><td>12名</td></tr> <tr> <td>第3回</td><td>28名</td></tr> <tr> <td>第4回</td><td>28名</td></tr> <tr> <td>第5回</td><td>20名</td></tr> <tr> <td>第6回</td><td>30名</td></tr> <tr> <td>第7回</td><td>15名</td></tr> <tr> <td>第8回</td><td>13名</td></tr> <tr> <td>第9回</td><td>17名</td></tr> </table>		長浜城下町まちづくり勉強会		第1回	38名	第2回	12名	第3回	28名	第4回	28名	第5回	20名	第6回	30名	第7回	15名	第8回	13名	第9回	17名
長浜城下町まちづくり勉強会																							
第1回	38名																						
第2回	12名																						
第3回	28名																						
第4回	28名																						
第5回	20名																						
第6回	30名																						
第7回	15名																						
第8回	13名																						
第9回	17名																						
長浜城下町まちづくり勉強会の様子		勉強会参加者数																					
④ 自己評価																							
<p>長浜城下町まちづくり勉強会や関連イベントの開催により、近世城下町としての長浜が広く市民や関係団体に認知されることとなり、「長浜城下町遺産」における新たな歴史的・地域資源の発掘や、歴史的な建物や景観を活かしたまちづくりの気運を醸造することができた。</p>																							
⑤ 今後の対応																							
<p>今後も、長浜城下町まちづくり勉強会等の事業を継続していくことで、長浜に残る近世城下町の町割りに関する歴史的・文化的価値について、より多くの人々に認知されるよう、取り組みを進めるとともに、市民中心に選定された「長浜城下町遺産」についても、長浜の歴史的価値を象徴する貴重なものであり、併せてまちづくりに活用していく。</p>																							

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
取り組み	A 曳山文化を活かしたまちづくり	種別	歴史的風致維持向上施設の整備管理・その他

① 取り組み概要

【山蔵保存修理事業】
 長浜曳山祭の山蔵は、重点区域内に13の山蔵が点在し、江戸時代後期に建造された歴史的建造物である。山蔵は、県指定有形民俗文化財に指定されており、曳山本体を適切に管理するために欠かせないものである。
 壽山及び諫鼓山山蔵の保存修理は、長年の風雨等による経年劣化や曳山の接触による破損があったため、専門委員会の各分野の専門家による指導を受けて、漆喰壁の塗替や軒樋の取替等の修理を実施した。



山蔵修理監理の様子

【長浜曳山祭保存伝承事業】
 重要無形民俗文化財「長浜曳山祭の曳山行事」の保護団体である公益財団法人長浜曳山文化協会が主体となり、長浜曳山祭公開に対する支援、三役修業塾及び囃子保存会による担い手育成、曳山の保存修理のための事前調査や専門委員会の開催など、保存伝承に向けて様々な取り組みを実施した。



三役修業塾発表会の様子

② 自己評価

山蔵の保存修理事業の実施により、歴史的建造物の価値を維持するとともに、安全性の確保や良好な景観の保全を図ることができた。また、長浜曳山祭の保存伝承事業では、長浜曳山祭の公開による市民への普及啓発、後世に保存伝承するための担い手の育成などの取り組みを行うことにより、住民の曳山祭を次世代へと継承する意識が高まった。こうしたハード・ソフト両面の取り組みに対して支援することにより、町並み景観や地域の魅力の向上を図ることができた。

外部有識者名	成安造形大学講師 中島誠一
外部評価実施日	令和6年12月12日

③ 有識者コメント

長浜曳山祭の山蔵は、曳山本体の収納保全はもとより祭りに欠かせない懸装品や装束などを収納する蔵であり、ランドスケープでもあるので保存修理事業は今回のように適切かつ迅速に行われるべきである。保存伝承事業も歌舞伎に直接関わる三役の養成、祭礼の進行に欠くことのできないシャギリなど無形民俗文化財の伝承のうえからも鋭意継続して事業推進されることを望む。また今年開催された鍛冶屋太鼓踊りとシャギリの共演のように長浜市民のソウルミュージックとしての浸透も大いに期待している。

④ 今後の対応

少子高齢化による地域住民の減少や祭りの担い手不足が深刻化する中、長浜曳山祭りを永続的に継承していくため、引き続き三役や囃子の後継者育成、普及啓発など保存伝承事業を実施する。また、曳山祭の曳山や山蔵を含めた歴史的建造物の保全については、未着手案件を早期に実施できるよう努めるとともに、保存修理のための技術の継承についても取り組む必要がある。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
取り組み	B 観音の里ふるさと祭り開催事業	種別	その他

① 取り組み概要

長浜市は、国宝・重要文化財を含めた観音像が数多く存在しており、「観音の里」として年間を通して多くの観光客が拝観に訪れている。

毎年10月には、市内の観音様を一挙に拝観できる「観音の里ふるさと祭り」を開催し、バスツアーや巡回バス、観音様との出会いを通じた様々なイベントで市全体を盛り上げ、市内外のふれあいと交流を促進し、門前市などにより物産の振興を図っている。

新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2、3年度は開催を中止し、令和4年度は規模を縮小して開催。令和5、6年度はコロナ禍以前と同規模での開催となり、入込客数も以前と同水準となった。

令和6年度には、本事業が第40回を迎えることを記念し、デジタルスタンプラリーやオリジナル御朱印帖の販売などを行った。

本事業をきっかけに、市内外のお客様がより多くのお堂を巡り、観音様やそれを守る地域の方と触れ合うことで、観音文化のさらなる周知と継承を図っている。



門前市の様子(令和5年)



観音を巡る巡回バス(令和6年)

② 自己評価

本事業を継続的に開催することにより、観光振興、地域振興を図るだけでなく、観音様を通じた市内外のふれあいと交流を促進し、観音様を守り伝えてきた献身的な美しい心と観音文化を多くの拝観者に紹介し、地元における観音堂を保全する意識向上の一助とすることができた。

一方これらの地域では、世話方の高齢化や継承者不足が課題となっており、今後開帳を断念するお堂が増加することが危惧される。

外部有識者名	淡海歴史文化研究所 太田浩司
外部評価実施日	令和6年12月19日

③ 有識者コメント

本事業が地域の祭として40年継続していることは、まず第一の成果と言えよう。特に、外来の観光客・観音ファンを、奥びわ湖各地に点在する観音像・諸仏へ案内し、巡回する企画は大変好評で、持続的に長浜市への関係人口を発掘する手段として有効に機能していると考えられる。ただ、東京での観音文化の発信基地だった「東京長浜観音堂」がなくなったことにより、今後は台東区などとの関係強化などが図られるべきであろう。

また、本事業が地域で観音を守る環境の支援につながるよう工夫する必要がある。観音や諸仏が地域で守られてこそ、本事業の意義があり、継続の糧となることを再認識すべきである。

④ 今後の対応

観音文化を多くの人々に周知し、観音像を後世に継承するため、市内部で連携を意識しつつ、御堂の維持や継承者不足への対策を講じながら、イベントを開催していく。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	1 近世城下町の町割りに見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 歴史的町並みの保全・形成 III 歴史や伝統文化を反映した活動の継承		

① 歴史的風致の概要

長浜の中心市街地は、碁盤目状に区画された道路に面して、両側に整然と町屋が立ち並び、各所には江戸時代の建築様式を受け継いだ町屋が多く点在、あるいは軒を並べている。

町衆は開町の恩人であり、免租地の特権、そして町年寄りを中心とした住民自治を認めた秀吉を敬い続けた。江戸時代に入ると幕府は秀吉を神格化することを禁じたため、「豊国大明神」の前立ちとして「蛭子神」を祀った。豊国神社の祭礼と、前立ちである長浜恵比須宮の祭礼は「豊公まつり」「十日戎」として現在も続いている。このように、秀吉を敬うまつりと秀吉が開いた城下町の町並みは、秀吉を敬い続ける町衆によって守り継がれており、歴史的風致を形成している。

② 維持向上の経緯と成果

豊公園は、公園施設の老朽化が進み、史跡の活用も十分ではなかったため、指定史跡範囲内での活用を検討し、公園の再整備を進めた。これまで活用されていなかった史跡の調査を行い、歴史的な風土と景観を一体化した都市公園に再整備することで、市民や来訪者が長浜城を中心とした城下町の歴史や構造を理解できるようになった。

また、長浜が近世城下町のルーツであることに着目し、その情熱を受け継ぐ町衆が未来に向けてさらなるエネルギーを生み出すことを目的に、近世城下町ふるさとまつり等のイベントを開催し、町割りに関する認知度の向上に繋げることができた。



豊公園試掘調査説明会の様子



近世城下町ふるさと祭りの様子

③ 自己評価

豊公園再整備事業を行い、長浜城を起点とした城下町の町割りや成り立ちを観光客や市民に示すことができるようになった。

また、近世城下町ふるさとまつりや勉強会等のイベントを継続的に開催することにより、近世城下町のルーツとしての長浜を市民が再認識する機会とすることができた。

④ 今後の対応

豊公園の再整備については、今後の財源の確保次第ではあるが、引き続き事業を進めて史跡の活用を推進していく。また、勉強会などのイベントを継続的に開催することで、長浜が近世城下町のルーツであることを市民に広く認識してもらい、歴史的な町並みの保存に対する意識を高めることを目指す。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	2 長浜曳山祭にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 歴史的町並みの保全・形成 III 歴史や伝統文化を反映した活動の継承		

① 歴史的風致の概要

長浜曳山祭は、長濱八幡宮や御旅所、そして人々の暮らしの息吹が感じられる町並みなど、まち全体を舞台空間としながら、厳粛に、華麗で優雅に、そして時には氣勢高くして執り行われる。秀吉の時代に思いを馳せ、まちの発展に祈りを込めながら、人々は宵闇に揺れる弓張提灯の灯を見つめている。

このように、長浜曳山祭の舞台であり、祭を受け継いできた人々が住む町屋やシャガリの音色が響くその周辺の市街地を含めた広い範囲に歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

長浜曳山祭の山蔵は、重点区域内に13存在しており、曳山本体を適切に管理するために欠かせないものである。この山蔵を保存修理することで、曳山が適切に管理できるとともに、歴史的な景観を形成することができた。

併せて、重要無形民俗文化財「長浜曳山祭の曳山行事」の保護団体である公益財団法人長浜曳山文化協会が主体となり、長浜曳山祭公開に対する支援、祭礼の担い手を育成している三役修業塾、囃子保存会により、保存伝承に向けた取り組みを定期的に行うことができた。

・三役修業塾 塾生数 延べ24人（太夫・三味線15人、振付9人）

・囃子保存会 稽古者数 約250人

また、曳山の保存修理のための事前調査や専門委員会を開催し、有識者の管理のもと適切な管理、計画的な修理を行うことができた。



山蔵修理監理の様子



市文化財保護審議会の様子

③ 自己評価

曳山や山蔵に関して、事前調査や専門委員会を開催し、有識者の管理のもと適切な修繕を行うことができ、歴史的建造物としての価値を高めるとともに、良好な歴史的景観の保全を図ることができた。また、曳山祭の担い手の育成と行事の保存伝承に向けた取り組みにより、子どもたちの受講機会が増え、曳山祭を次世代へと継承する意識が高まった。

④ 今後の対応

重点区域内における歴史的な町並み景観の保全・形成については、一定の成果が見られた。山蔵の修理については、山車の保存・修理計画と山組の資金計画との兼ね合いがあるが、引き続き継続的に取り組んでいく。長浜曳山祭における担い手や、曳山装飾品などの伝統工芸技術を持つ職人の少子高齢化が進んでいるため、対策に取り組む必要がある。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	3 大通寺とその門前町にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 II 歴史的町並みの保存・形成 III 歴史や伝統文化を反映した活動の継承		

① 歴史的風致の概要

真宗信仰の篤い湖北地方において、大通寺は真宗門徒の心のよりどころとなっており、人々は自分の町内にある寺院の行事だけでなく、大通寺で法要等が営まれるときには湖北各地から参詣し、大通寺とその周辺には、江戸時代から門前町が形成されてきた。旧長浜町周辺や湖北地方各地に暮らす人々にとって、旧長浜町を訪れることを「浜行き」と呼び、大通寺への参詣は「浜行き」への象徴であり、またお参りがてらに様々な買い物をし、ご馳走を食べて家路につくことが、人々の大きな喜びであった。静寂に包まれた大通寺からは、半鐘の音と信仰の篤い善男善女の読経が境内に響き渡り、古と変わらぬ人々の営みを今に伝えている。その山門を一步くぐり抜けるとそこは賑やかな雰囲気にも包まれた参道が伸び、道行く人々の笑い声が聞こえる門前町の風情漂う町並みの歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

大通寺の伽藍群の一部である講場のうち、茶所、因講、二十八日講については、現状での維持管理が困難であったため、所有者により取り壊しが行われた。これらの講場について保全できなかったが、その際、実測調査や記録写真の撮影、古文書の調査を実施し、各講場の増改築の変遷過程や、大通寺を支えてきた講組織の様子を探ることができた。

また、大通寺の境内を会場に、市街地一帯で開催された長浜きもの大園遊会では、200人以上の女性参加者が着物姿で歴史的な町並みを歩き、市街地の良好な環境を形成し、門前町の賑わいを創出した。令和6年度からは、長浜kimonoAWARDSを開催し、大通寺の参道にレッドカーペットを敷き、服飾デザインの学生がデザインした着物ファッションショーコンテストを行うなど、着物文化を取り入れつつ、時代に合わせたイベント内容にリニューアルし、門前町の活性化を図ることができた。



大通寺講場の調査の様子



因講・二十八日講解体後の様子



長浜kimonoAWARDSの様子

③ 自己評価

大通寺伽藍群の一部である講場を保全できなかったが、記録調査により、境内における民衆布教の歴史を物語る貴重な遺構の記録保存を行った。

また、長浜きもの大園遊会では、従来の着物姿の女性が参加するイベントから、着物ファッションショーなどの新しいイベントで歴史的景観を活用することができた。

④ 今後の対応

大通寺の残存している伽藍群については、他の建築物の兼ね合いを見ながら継続的に保存修理に取り組んでいく。また、保全調査の記録の活用や、今後の歴史的建造物や町並みの保全については、今後も関係機関や維持管理者等との協議を進めていく。

着物イベントについては、歴史的景観を活用しながら柔軟なイベントの開催体系を検討し、次年度以降も門前町の賑わいの創出に取り組む。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	4 街道にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 歴史的な町並みの保全・形成		

① 歴史的風致の概要

長浜市は古くから交通の要衝であり、市内にはいくつも街道が通っていた。かつての宿場町には現在でもその面影を見ることができ、特に北国街道木之本宿は、平入瓦葺の町屋が並び、宿場町の名残が感じられる。また、参詣に訪れる人々の往来が今も絶えない浄信寺の門前町としても発展した歴史があり、木之本地蔵に願いを託す参詣者の姿が印象深いほか、木之本地蔵大縁日や辞意期の人々によって神輿が巡行される秋葉祭りでの賑わいをはじめ、養蚕業などとともに地域の重要な産業として盛んに行われてきた造り酒屋の杉玉が、町並みにアクセントを加え、宿場町や門前町の風情漂う町並みの歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

地元住民により結成された「木之本町並み研究会」では、学識経験者を講師に迎えた研究会や、現地見学会などを行い、町屋建築の歴史と活用方法について学習している。これにより、住民の伝統的な町屋に対する保存・活用への意識が向上している。

また、北国街道木之本宿のランドマークである木之本地蔵院を拠点とし、南北へ約1100m、東西へ約830mのエリアを目安とし、滞在快適性等向上区域（まちなかウォークブル区域）を設定。歩車道の明確化により歩行空間の拡幅を行うとともに、冬季における移動導線を確保するための消雪設備整備を行った。ゆとりがあり、歩きやすい歩行者空間を創出することで地域住民及び観光客の安全性と木之本宿の周遊性を高めたが、北国街道における街道としての歴史的風致の一部を守れなかったことが反省点である。



北国街道南側交差点



木之本町並み研究会の部会の様子

③ 自己評価

地域住民が自主的に組織した研究会の活動により、重点区域周辺の景観に対する意識が変わり、伝統的町並みの保存・活用に対する気運が醸成された。

北国街道木之本宿の道路整備については、街道の美装化、路側帯の整備を進めたが、北国街道における街道としての歴史的風致の一部を守れなかったことが反省点である。

④ 今後の対応

地元住民による活動を継続的に支援し、歴史的建造物に対する理解をさらに深めていく必要がある。

また、引き続き北国街道の美装化、路側帯の整備については、地域住民のより安全な移動ルートを確認しつつ、市関係部署と連携し、歴史的な町並みを生かした景観の保全に努める。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	5 竹生島にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史的建造物の保全と活用 Ⅲ 歴史や伝統文化を反映した活動の継承		

① 歴史的風致の概要

琵琶湖に浮かぶ竹生島は、深い緑に包まれ、一步足を踏み入れると、そこには現代社会の喧騒からかけ離れた空間が広がっている。島内は弁財天様や観音様を信仰する人々で溢れ、桃山時代の絢爛豪華な建造物が私たちを迎えてくれる。千年を経た今日でさえも、竹生島は人々の心を引き付けてやまない。

このように、古来より「神を斎く島」として人々から篤い信仰を集め、地域が一体となって竹生島の伝統を守り伝えている歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

竹生島では、自動火災防火設備が設置から50年以上経過し、設備が更新されず老朽化していたため、平成19年に「竹生島文化財防災施設設置計画」を策定。島内の歴史的建造物の保全のため、全般的な防火設備の見直しを行った。

これに伴い、島内の防火対策や自然災害に備えるため、令和4年度から令和8年度までの5か年計画により自動火災報知設備及び消火栓設備の改修を実施しており、訪問者の安全の確保と、歴史的建造物等の保全に繋げることができた。



消火栓設置状況①



消火栓設置状況②

③ 自己評価

令和4年度から令和8年度までの5か年計画で防災施設整備事業を実施。

島内の自動火災報知設備の改修や消火栓設備の改修を行うことで、歴史的建造物の防火対策として火災や自然災害等に備え、文化財の保全に繋げることができた。

④ 今後の対応

歴史的建造物の保全において防災設備の整備は重要な課題であり、引き続き、防災施設設置計画に基づき文化財防災施設の改修を行う。

また、継続的に防災設備の更新及びメンテナンスを行い、歴史的建造物の安全な継承に努める。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	6 観音信仰にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史や伝統文化を反映した活動の継承		

① 歴史的風致の概要

三方を緑豊かな山々に囲まれ、風光明媚な田園風景が広がるこの地域では、観音様の多くが無住の小堂で地域の人々によって大切に守られている。地域の人々にとっては観音様を守らせていただいているという、そのありがたい「ご縁」に感謝して暮らしている。このように観音様を献身的に守り継いできた人々の歴史こそが、真にこの地を「観音の里」たらしめており、木々に埋もれたお堂や集落のなかの小さな祠が地域の人々によって手厚く守られている歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

観音文化を通じて、市内外の交流を促進し、観光振興及び地域振興を目的として「観音の里ふるさとまつり」を開催した。この祭りを通じて、観音様を守り伝えてきた献身的で美しい心を多くの拝観者に紹介するとともに、地域における観音様を後世に継承する意識が向上した。

また、令和2年度から「観音の里・祈りとくらしの文化伝承会議」が発足し、各観音堂が抱えている問題の共有や、協議・検討する体制を構築することができた。

このほか、各お堂の現況調査により判明した様々な問題点について、講演会等において市内外の人に共有することで、観音文化の保存伝承のための支援者・協力者の獲得や観音文化の浸透を図ることができた。



観音の里・祈りとくらしの文化伝承会議の様子

③ 自己評価

「観音の里ふるさとまつり」を開催することにより、地域特有の観音文化を多くの人々に周知でき、観音様を後世に継承する意識の醸成を図ることができた。このほか、各お堂の現況調査により判明した様々な問題点について、講演会等において市内外の人に共有することで、観音文化の保存伝承のための支援者・協力者の獲得や観音文化の浸透を図ることができた。



観音の里ふるさとまつりの様子

④ 今後の対応

観音文化を多くの人々に周知し、後世に継承するために引き続きイベントを開催していく。今後、若い世代をターゲットにした観音文化浸透を目指した事業を検討していく。

観音の里・祈りとくらしの文化伝承会議は今後も定期的に開催し、観音堂における諸問題を共有し、今後の維持管理体制について検討していく必要がある。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	7 奥琵琶湖にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 歴史的町並みの保全・形成 Ⅲ 歴史や伝統文化を反映した活動の継承		

① 歴史的風致の概要

びわ湖北部の奥琵琶湖一帯の集落では、古来より琵琶湖で漁を営み、またその水運を利用した湖上交通や湖上輸送を盛んに行うなど琵琶湖とともに暮らしており、今も残る石垣がその歴史を物語っている。

なかでも菅浦は、陰しい山々と琵琶湖に囲まれた環境のなかで、住民全員で自治を支える「惣村」という体制を確立させた。静寂が漂う集落のなかで、四足門が存在感を示すなど、惣村の名残や人々の暮らしの中に今も静かに息づいており、奥琵琶湖にみる歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

平成26年に菅浦集落の役員で設立された「惣村の会」では、観光客に向けて集落の案内を行い、菅浦の歴史や文化的景観の魅力を伝える活動を続けている。

特に、地元住民が管理運営している菅浦郷土資料館は、菅浦の歴史的建造物や景観を伝える重要な拠点となっており、古文書等の資料が展示され、この地域の歴史的風致を理解できるよう工夫されている。

令和5年からは、「国宝菅浦文書里帰り展」と題し、平成30年に国宝に指定された菅浦文書の展示を行っている。これにより、住民や観光客に対して菅浦の歴史の認知向上を図ることができた。



菅浦郷土資料館内



国宝菅浦文書里帰り展チラシ

③ 自己評価

惣村の会の活動により、菅浦を訪れる人々に中世の惣村風景を知ってもらうことができ、歴史的建造物や景観を伝えることができた。

また、菅浦郷土資料館による「国宝菅浦文書里帰り展」を開催し、市民や観光客に向けて菅浦の歴史を広く周知することができた。

④ 今後の対応

菅浦を含めた奥琵琶湖一帯の湖岸集落においては、今後、文化的景観としての価値を評価し、そのうえで必要とされる保存修理を進めるとともに、集落役員の高齢化が進んでいることもあり、これらを適切に維持するための仕組みづくりを検討する必要がある。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
歴史的風致	8 地域の民俗行事にみる歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅲ 歴史や伝統文化を反映した活動の継承		

① 歴史的風致の概要

長浜市を含めた湖北地方では、豊かな実りと日々の暮らしの平穏を神に祈る祭祀が古代から現在に至るまで、自然を崇拝する心と深く結び付きながら、伝承されてきた。自然の恵みに感謝し、豊穡を祈願するというオコナイをはじめ、さまざまな祭礼が地縁で結ばれた氏神を中心に、地域住民の最大行事として繰り広げられている。また、子どもが中心となって行われる地藏信仰（地藏盆）やケヤキやスギなどの巨木を神として祀る野神信仰、稲の害虫を追ひ払う火祭りである虫送りや雨乞いやその返礼のための太鼓踊りなど、地域住民が一体となって無病息災や五穀豊穡を祈る姿が今もみられ、地域の民俗行事にみる歴史的風致が形成されている。

② 維持向上の経緯と成果

市内に伝わる無形民俗文化財・伝統芸能を未来に伝え、保存活用することを目的として、長浜市無形民俗文化財保存活用協議会を開催している。

この協議会では、文化庁の補助金を財源として、市内で行われている伝統芸能に使用する道具の修繕などを行っている。令和6年度には、湖北地方に伝えられている太鼓踊りのひとつである鍛冶屋の太閤踊りの道具（たいこ）を修繕することで、鍛冶屋太閤踊保存会による公演を継続し、地域の伝統芸能を発信に寄与することができた。



修理前



修理後

③ 自己評価

長浜市無形民俗文化財保存活用協議会を通じて、各保存団体から聞き取り等を行うことにより、市内の伝統芸能に使用される道具の修繕に補助金を交付する取り組みを行った。その結果、一部民俗行事の継続が可能となり、伝統芸能の発信と継承に寄与することができた。



太鼓踊り

④ 今後の対応

地域の少子高齢化により、民俗行事の開催や継承が困難になっている団体が数多くある。各保存団体等から意見や問題を聴取し、地域の少子化、担い手不足により 継続して民俗行事を継承していくための対策を引き続き検討していく必要がある。

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
<p>① 庁内組織の体制・変化</p> <p>長浜市歴史的風致維持向上計画（第2期）の推進にあたり、事務局である歴史まちづくり室と都市計画課が連携し、随時担当者打ち合わせ会を実施した。 また必要に応じて庁内関係会議を開催し、部局横断的な連携を図った。</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;"> <div style="flex: 1;"> </div> <div style="flex: 1;"> <p>歴史まちづくり協議会の様子</p> </div> </div>			
<p>② 庁内の意見・評価</p> <p>【庁内の意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業整備については、自分のまちの歴史的価値について、住民に印象付けることが重要である。 ・長浜の市街地では個人商店が減っており、空洞化を防ぐために新規出店者に店舗改修費用等の補助金を出しているが、歴史的な街並みという視点はあまり意識していなかった。今後は、これまで取り組んできた職員の意思を受け継ぎながら事業に取り組み、次世代へも引き継いでいきたいと考える。 ・事業が先行してしまうと歴史まちづくり計画がうまくいかない場合がある。長浜市として、まちづくり全体の方向性を先に固める必要がある。「歴史でまちづくりを行う」という理念を職員間でも引き継ぐ必要がある。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画に基づき各事業の担当課が計画的かつ継続的に活動を行った結果、地域の魅力向上、伝統的な町並み景観の保全、来訪者の安全性確保を実現した。 ・長浜曳山祭をはじめとする伝統行事や民俗芸能の保存団体は、少子高齢化や担い手不足といった課題に直面しており、次世代への継承には引き続き積極的な支援が必要。 ・建築や開発の事前相談時には文化財保護室と情報を共有することで、歴史まちづくりの推進に向けた連携が図られた。 			

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
------	-----	--------	-------

① 住民意見

令和6年度長浜市民意識調査

(6) 長浜市の「良いところ」、「愛着・誇りを感じるところ」

あなたが思う長浜市の「良いところ」、「愛着や誇りを感じるところ」は、どのようなことですか。次の中から選んでください。（2つまで）

○「自然や緑が豊かなまち」が 55.4%、「歴史と伝統があるまち」が 46.0%であり、次いで「快適な居住空間があるまち」が 22.3%、「人柄や風習、郷土愛などの地域性」が 19.9%であった。

項目	割合
歴史と伝統があるまち	46.0%
自然や緑が豊かなまち	55.4%
交通の便がよいまち	11.0%
医療や福祉が充実したまち	9.7%
快適な居住空間があるまち	22.3%
人柄や風習、郷土愛などの地域性	19.9%
その他	1.8%

N=1,316

調査期間：令和6年4月26日～5月10日 調査対象者：18歳以上の長浜市民
調査配布数：4,000件 有効回答数：1,316件 有効回収率：32.9%

② 協議会におけるコメント

- ・歴史的価値がある建物だから残すという観点だけでなく、歴史的な街並みといった景観のことも考えながら検討をしなければならなかったと思う。歴史的価値がある建物の保存に関する規制や計画だけでなく、景観に配慮した建築となるような規制や計画が大事である。（R4）
- ・長浜市歴史的風致維持向上計画では、長浜城下町や木之本宿北国街道沿いの建物が象徴的であるが、長浜曳山祭に限らず、地域の祭りの担い手不足をはじめとする、その地域に根付く文化や心が次の世代に継承できずに失われていくことを危惧している。建物だけでなく歴史的文化や心を残していくことも重要で、そのきっかけ作りが必要と考える。（R5）
- ・曳山博物館には古い仏壇がありそれをお客様に紹介するとこんなに古いものが残っているのかと驚かれる。本日の協議会の意見や、こうしたお客様の声を念頭に今後もまちづくりに携わってきたい。（R6）
- ・本制度の大きな欠陥として、住民に制度を知っていただく機会がないという点がある。住民と行政の意見が統一されていないと計画の遂行は難しい。どのように計画を浸透させるかという仕組みづくりについても検討すべきであり、国土交通省に相談したほうが良いのではないかと考える。（R6）
- ・長浜市民意識調査について、長浜市のいいところとして歴史と伝統があるまちを挙げている人が46%いるが、これは当たり前のことではない。長浜市だからこの数字が出ており、歴史風土性が出来上がっている。（R6）

市町村名	長浜市	評価対象年度	R2～R6
<p>① 全体の課題</p> <p>①市には、歴史的景観の重要な構成要素である歴史的建造物が多く残されているが、所有者の高齢化や建造物の老朽化が進んでおり、修復費用等の負担など、維持管理の難しさが保存・活用を阻害する要因になっている。</p> <p>②民俗芸能や伝統技術の継承、伝統文化の担い手の育成に関して、少子化や人口流出による後継者不足と、担い手や技術者等の高齢化により、継続が困難になってきている。</p> <p>③歴史的建造物や歴史的な景観に関する住民の理解がまだ十分に浸透しておらず、これらの活動や保全に対する関心は限定的となっている。</p> <p>④道路や町並みの整備事業について、歴史的建造物や歴史的な景観を保全・活用しつつ、住民の生活利便性の両立を図っていくこと。</p> <p>⑤市における歴史的風致維持向上計画の推進にあたっては、文化財、都市計画、建設など複数の部署が関与しているが、各部署間での情報共有や計画についての共通認識や連携が十分でない。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>①歴史的建造物の保全・活用について、修理・修景事業を継続的に実施するとともに、建造物の調査及び保存対策について地元住民と連携しつつ取り組んでいく。</p> <p>②長浜曳山祭や本市固有の民俗行事における技術の継承や担い手の育成に関して、担い手の確保や育成などを行う組織への支援や対策を引き続き実施していく。</p> <p>③歴史や伝統文化を反映した各保存事業の継続や、長浜城下町まちづくり勉強会や観音の里・祈りとくらしの文化伝承会議などの活動により、歴史的建造物や歴史的な景観に関する住民の理解や意識向上を図る。</p> <p>④歴史的景観と住民にとっての利便性との調和を図るには、庁内の事業実施部署間での情報共有及び連携を図るとともに、歴史的風致維持向上計画の理解と理解促進のため、伝統文化の継承や地元住民との協議や勉強会を進めていく。</p> <p>⑤歴史的風致維持向上計画の推進と、歴史的町並みの維持には、庁内の部局横断的な協力体制が不可欠である。担当部署間で定期的な協議の場を設けることや、関連する事業について情報共有等を行い、体制強化を図る。</p>			